

新型コロナウイルス感染症対策による臨時休校中の生徒の皆さんへ (③)

2020年4月10日

校長 森野章二

何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい。

(新約聖書 ピリピ人への手紙 2章3節～4節 — 新改訳聖書)

緊急事態宣言が発出され、2年生、3年生の皆さんにとっては再三にわたる休校の延長、1年生の皆さんにとっては入学早々の休校となりました。自宅に籠もることを余儀なくされ、心も身体も疲れている人が多いかもしれません。

例年、春の新年度開始時期は、新しい出会いがたくさんあり、色々と忙しい中にも、フレッシュなエネルギーと新たなやる気、それに伴う喜びが溢れる時です。しかし、生徒の皆さんと直接会うことの叶わない先生方は、とても寂しそうです。生徒の皆さんの中にも、せつかく新たな気持ちで頑張ろうと思っているのに出鼻をくじかれた、と感じている人がいることでしょう。登校が再開される時まで、そのやる気をしっかりとキープし、エネルギーを蓄えておいて欲しいと思います。

学校では今、来週水曜日から学年ごとに始まるオンライン学習に向けて、先生方は勉強と準備に余念がありません。オンライン学習に長けている先生方だけではなく、あまりパソコンや情報端末等に詳しくない先生方も、i-Pad やノートパソコン片手に、オンラインで上手く通信が出来るか、どんな学習指導が可能か、一生懸命に研究、準備をしています。この緊急事態の中、生徒の皆さんの健康と安全を守りつつ、皆さんのために出来る限りのことをしてあげたい、という情熱と愛情がヒシヒシと伝わってきます。一日も早く、皆さんに手を差し伸べたい、という気持ちが溢れ出ています。清教学園の先生方は本当に素晴らしい、と改めて感じます。

オンライン学習のための研修、準備を進めて行く中で私の心に響いたのは、ある先生が語られた、「全員がいつもより“ちょっとだけ”優しくなりましょう」という言葉です。

今回新しい取り組みです。しかも、直接手を取って説明出来ない限られた環境の中で進めて行かなければなりません。上手く行かないこともたくさんあるかもしれません。でも、いつもより“ちょっとだけ”優しくなって、許し合い、認め合い、励まし合い、受け止めあって、共に感謝したいものです。

「全員がいつもより“ちょっとだけ”優しくなりましょう」という言葉は、オンライン学習に関してばかりではなく、今の状況、緊急事態宣言下の社会においても大切な意味を持っているのではないかと思います。非常事態においては、私たちはついつい自己中心的になってしまいます。自分を守るために、他人のことは二の次になりがちです。いつもより“ちょっとだけ”優しくなることが求められる時期だと思います。

「夜と霧」という作品の著者であるヴィクトル・フランクルは、第二次大戦中、ユダヤ人の強制収容所という極限状態の中にあって人間は天使と悪魔に分かれた、と証言しています。極度の飢餓状態の中で、死にゆく仲間のパンを奪い取る者がいた一方で、自らが餓死寸前の状態にありながらも、仲間に自分のパンを与え、温かい励ましの言葉をかけ続けた人がいた、というのです。

少し極端な例かもしれませんが、皆さんはどちらのタイプの人間でしょうか。こんな時期だからこそ、全員がいつもより“ちょっとだけ”優しくなって、この辛い時期を一緒に乗り越えて行けたら幸いです。